



# 人と大地が躍動するまち

牧野 勇 司

二〇〇九年九月一三日、天才イチロー選手は九年連続二〇〇本安打を達成し前人未到のメジャー記録を樹立した。記念すべきその日、私は土別市長選挙で五一票（イチローの背番号）の僅差で勝利した。

市政は「市民のために市民が創る」をモットーとして、「市民が主役」の市政実現に向けて一九九〇年、当時市職員を退職し三九歳で一石を投じた。選挙とは、政策を競いあいそのエネルギーを市政に反映するべきもの、その思いから一九九八年四七歳で二度目の挑戦、そして今回三度目の正直で当選させていた。この間、民間会社

で働きながら五期市議会議員として市民のご支援・ご指導のもと勇往邁進させていた。私

は、一九五〇年上川管内風連町（現名寄市）で農家の次男としてこの世に生を受けた。一九七三年大学卒業後土別市職員として採用された。市職労執行委員長時代は一〇〇人を超える組合員により二カ年かけて「未来にかける虹の会」を組織し、農民連盟や青年会議所などの団体と連携して地域活性化運動を展開し「地域活性化プラン」を策定した。そのことが人生の転機となり市長選への挑戦となった。市長就任時に職員に対して、地域主

権は「地域力・人財力」による自治体の知恵比べの時代を迎えたことを意味する。前例踏襲主義に拘らず柔軟な発想と創意工夫によりスピードをもって政策・施策を実行し、「目配り・気配り・心配り」で「対話・調和・市民の輪」を基本に対応しよう訴えた。

選挙戦で掲げた市民との約束（マニフェスト）である「やさしいまち・たくましいまち・あたらしいまち」六〇項目については、新年度予算で一定の道筋を描くことができた。子供は次世代を担う「地域の宝」お年寄りはその思いから「子育て日本一」を目指し、子育て・子育てを総合的に支援するため「子ども・子育て応援室」を四月に設置した。

小・中学校一七校を順次訪問し「子ども夢トーク」を実施しているが、そこで出された要望を受け「中学生のバス料金半額制度」を現在社会実験中である。

この他、市立保育所の保育料の軽減や、幼稚園就園奨励補助など各種施策



を実施するとともに、医師不足により地元市立病院で分娩ができず小児科病棟も休床中であることから、精神的・肉体的・財政的負担を軽減するため八月から小学生以下は医療費無料化、中学生は入院時無料化を実施。これは、全道三五市中二番目とのことである。

また、管理職一二〇人により「地域担当職員制度」を創設した。座して待つのではなく積極的に「市民の輪（地域）」の中に出向くことを基本に、自治会や各種団体等と連携のもとに、各種情報の提供や地域課題の把握など「市民が主役」のまち創りを進めている。

本年は、六五歳以上の独居老人宅一二〇〇戸全てを訪問し生活実態を調査

し、今後は地域ごとに支援できる組織を充実する計画だ。

信頼に勝る財産なし！「真の協働のまちづくり」を展望するとき、この制度を持続することが職員を成長させ大きな波動となるはずだ。

一方、当面二年間で民間法人によりグループホーム等の各種福祉施設が一〇〇床整備される予定だが、現在五〇床の特別擁護老人ホーム（コスモス苑）に待機者が一〇〇人を超えている。増築には巨額の資金が必要となるが、資金ではなく知恵を投入し、施設の内部改修により二〇床増床を七月末で完成した。入所者の増員・雇用の場の拡大・経営の健全化という「二石三鳥」が達成されつつある。

士別市は一八九九（明治三二）年、最北にして最後の屯田兵のたくましい力によつて開拓の鉞が下ろされてから、今年で一一年という意義深い年を迎えた。朔北の大河「天塩川」の豊かな水と肥沃な大地の恵みのもと、農業を基幹産業として発展を遂げてきた。二〇〇五年には士別市と朝日町が合併し

「新生・士別市」が誕生し新たな歴史を刻み始めた。

先行き不透明、出口の見えない閉塞感が漂うが、先人たちの歩んだ開拓の歴史と気概に思いを馳せつつ、暗くて長いトンネルの先には必ず希望の光が射すことを信じ邁進しなければならない。

「サフオーランド」「台宿の里」「自動車等試験研究」「生涯学習」「水と緑のまち」づくりを継承発展させ市民の限りない英知と汗を結集し、自然に恵まれた北の食糧宝庫として「人と大地が躍動するすこやかなまち」を目指したい。

地方自治は、この地の一人の声こそ原点。学歴より学習歴の時代、人を育て人財過疎にならぬことが肝要だ。

士別市文化賞受賞の歌人、故・斉藤昌淳氏は『直ちには 海に下らず 北を指す 天塩川は 北国の意志』と訴んだ。本市は、天塩川の源流域である。私の師と仰ぐ方の教えは『ひろがるものは すべて嵐の中に立つ』である。勇気と気概を心に秘め前進したい。

へまきの ゆうじ・士別市長